全国会議を討議・具体化し行動へ

選挙勝利の土台つくる

「担い手」30人・読者8人増やす

大分・日田市　西有田支部

大分県日田市の西有田支部は、「8月までの活動が総選挙勝利の土台をつくる」と位置付けて、各目標を定めて活動を進めています。

7月末に開いた支部会議で全国都道府県委員長会議の報告を読み合わせて討議し、総選挙に向けて8月末までにどうたたかうか具体化しました。

支部の得票目標実現に必要な支持拡大をやり抜くために、「赤旗」読者・元読者に働きかけて支持を広げてもらう担い手づくりをすすめ、122カ月連続前進中の読者（前回比で日刊紙2人増・日曜版回復＝8月1日時点）は毎月5人増やし「減らさず前進」を継続する、宣伝活動――などです。「現役世代の党員を増やしたいと思っていますが課題です」と支部長。

7月は担い手づくり、読者拡大で5回のいっせい行動をしました。

猛暑が和らぐ夕方に元読者を訪問。マスクをして感染防止に気をつけました。

支部の党員は、「こちらはなるべく短時間でと気を遣いましたが、相手の方が『よく来てくれた』と歓迎してくれ、どこでも話が弾みました」と話します。

「菅政権は、ざまあねえなあ（だらしがなく、どうしようもない）。早くコロナを収束してほしいが何にもできてない」。訪ねた人は、たまった鬱憤（うっぷん）を晴らすように党員に話しました。

「総選挙が近づきました」と資料を渡し、「家族、親戚、知人にも支持を広げてください」と訴えました。7月は30人が担い手になり、そのうち8人が日曜版読者になりました。

「都議選、よかったね」「今度は共産党は伸びるよ」と声をかけてくる人も。「支持を広げてみんなが投票にいかなければ簡単に伸びないよ」と答えると、「そんなことかい。わかった」と支持を広げることを約束しました。

7月は大谷敏彰市議と25カ所で街頭宣伝し、「五輪を中止し、コロナ収束に全力を尽くせ」と訴えました。

党創立99周年記念講演会は、党員宅3カ所で視聴しました。

目標達成めざし視聴会

出会ったばかりの青年も参加

滋賀・東近江市　愛東支部

滋賀県東近江市の愛東支部は、4日の志位和夫委員長の党創立99周年記念講演の視聴会を、宣伝中に出会った30代の青年を誘って開きました。視聴会は廣田耕康市議宅で行い、ふだん活動になかなか参加できない支部員にも案内しました。

3日の支部会議で、全国都道府県委員長会議の志位和夫委員長の中間発言を議論しました。8月末までに「支部の得票目標に必要な支持拡大と、党勢の前回総選挙時突破という『二つの目標』を達成しよう。そのためにも視聴会を成功させよう」と意思統一しました。

支部長の木村圭治郎さんは7月25日に、廣田市議と宣伝カーによる宣伝を行った際、その青年と出会いました。

「五輪を中止して新型コロナ感染対策に力を集中しよう」と訴えると、青年が近寄ってきました。「文句を言われるのかな」と一瞬、思いましたが、青年は「ビラまきを手伝いたい」と言いました。廣田市議が青年と話をして連絡先などを教えてもらいました。

服部恒平・湖東地区委員長と廣田市議が青年宅を訪問して日本共産党について説明すると、「生活が苦しくなって初めて政治に関心をもった」「政党助成金も企業献金ももらってないんや」「すごいですね」と菅自公政治への怒りと日本共産党への共感を示しました。視聴会に誘うと快く応じ、「赤旗」日曜版をすすめると購読を約束しました。

その後、青年はツイッターで、「スマホばっかりなので、久しぶりに活字みるのええわー。週一ぐらいのペースならみようかな」「政治関係ない内容が、写真とか、子どもの絵とか、可愛かった」などと述べました。

比例を軸に総選挙勝利を

火水木土日付